

5月3日～5月6日



交通局「春のおもてなしキャンペーン」

月刊

あじえんだ 5月

2008年



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL : 075-647-3535 FAX : 075-647-3536
E-mail : ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL : 075-211-9281 FAX : 075-211-9286

京のアジェンダ
21フォーラム



5月5日こどもの日

地球愛祭り2008に出展 省エネ相談所を開設 家庭の脱温暖化に向け今年度も省エネ相談の拡大を目指します！

5月5日こどもの日、新風館（京都市中京区）で開催された「地球愛祭り2008」に、フォーラムは京都市・京エコロジーセンターと共同でブース出展し、省エネ相談所を開設しました。

このイベントは、「地球に対する感謝の気持ち」を主題に、地球温暖化問題に市民ひとりひとりが目を向け、自然環境や資源問題、生態系や人々の暮らしなどの切り口からそれぞれの行動を考えてもらう趣旨で昨年度より開催されています。当日は、ステージでのトーク、パフォーマンス、音楽演奏などと22のブース展示に、約3000人の参加者でにぎわいました。

われわれのブースでは、脱温暖化に向けて重要な各家庭での省エネルギーを促す省エネ相談を実施したほか、「DO YOU KYOTO?（環境にいいことしていますか?）」のメッセージとともに、政府が洞爺湖サミットに向けて近く選定する「環境モデル都市」に京都市が立候補する際の取組項目の説明と、それに対する市民意見の募集を行いました。

来場者は環境意識の高い人が多く、省エネ相談と環境モデル都市への意見募集の両方に快く応じていただくことができました。

会場のメインステージでは、門川大作市長がトーク出演し、「『京都市と環境意識』について」と題して、市長の考えとともに、市民とともに環境家計

簿などの取組を進めていきたいと語りかけました。フォーラムからは、トーク出演のあと、市長に省エネ相談を受けていただき、普段の相談のやり取りを実演するかたちで、家庭の脱温暖化を具体的にどのように呼びかけているか説明させていただきました。

フォーラムでは、今年度も各関係主体と連携して、家庭の省エネ相談の一層の拡大に取り組みます。システムティックな相談実施体制の確立や省エネ診断アドバイザーになってくださる方を増やすことなどについて、積極的に取り組んでいきます。皆様のご注目とご参加をお願いいたします。



門川市長も省エネ相談を体験しました



2008（平成20）年度フォーラム総会 & 会員交流会 “サロンdeエコ” ご案内

2008（平成20）年度フォーラム総会

日時：6月13日（金）18時～19時

会場：からすま京都ホテル（烏丸通四条下ル）

会員交流会 “サロンdeエコ”

総会終了後、同会場にて会員交流会 “サロンdeエコ”（立食形式・要参加費）を開催します。

会員の皆様への詳しいご案内については、後日、議案書などとあわせて事務局より送付させていただきます。

Agenda
Forum
5月の
ミーティングと
主催行事の予定

5月12日（月）16時～ 気候ネットワーク事務所にて
5月13日（火）19時～ ecotone事務所にて
5月14日（水）17時半～ 京エコロジーセンターにて
5月下旬（日時・会場未定）

自然エネルギーWG運営会議
エコまつりWG運営会議
KESCおひさまチーム会議
幹事会



★連載★ 京の交通交流ひろば出張所 第2回 京都の市バス路線は「わかりにくい」か？ 【その1】観光シーズンの現場から

事務局コーディネーターの長谷川吉典です。連載「京の交通交流ひろば出張所」第2回をお届けします。「京の交通交流ひろば」は、環境にやさしい交通体系の創出を目指して活動している交通WGのウェブサイト※で、環境を主な視点にしながら京都の交通に関する様々な情報を紹介しています。本連載では、その中から、広くフォーラム会員の皆様に興味深く見ていただけるようなトピックを毎月紹介していきたいと思います。 ※<http://traffic.ifdef.jp>

●わかりにくい？ 京都の市バス路線

京都の市バスの系統数は70余りあって、よく「複雑でわかりにくい」と言われます。市バスの系統は碁盤の目の街路を単に縦横に走るだけでなく、何度も交差点で曲がる経路を取るものがほとんどで、市バスの系統の全体像が頭に入っている人はなかなかいません。

ですが、今の市バスの系統は実際に利用する人にとって、本当に「わかりにくい」のでしょうか？ 今回と次回で2回で、そのあたりを考えてみましょう。まず今回は、観光客にとってのわかりやすさを取り上げます。

●観光客の交通手段

地球温暖化防止の面からも、歴史的観光地の交通渋滞を軽減する面からも、京都を訪れる観光客の皆さんには、マイカーでなく公共交通機関(バス・電車)を利用していただきたいものです。

2006(平成18)年の『京都市観光調査年報』(京都市産業観光局)によると、同年に京都を訪れた4839万人の観光客の利用交通手段はJRが35%、私鉄が26%、バス(貸切バス等)が10%、そしてマイカーが29%ということです。

●京都駅へ到着→観光地へバスで直行

JRで来る人の割合が一番多いようですが、JR京都駅前のバスターミナルの様子を見てみましょう。バスターミナルからは、市内の主な観光地へ乗り換えなしでいける路線バスが発着しています。乗り場には大きな幕が下がっていて、観光客は今日の目当ての目的地へ行く乗り場を見つけてバスに乗り込めばよいようになっています。

バスの経路は路線図の上でこそ入り組んでいますが、観光客にとっては取るべき行動はシンプルだといえるでしょう。

●GWの案内の現場

GWには、交通局が「春のおもてなしキャンペーン」と銘打って、主要なバス停で観光客への案内を行っており、バスを待つ行列の整理をしながら、観光客の問合せに答える職員の姿が見られます。

●一見複雑な市バス系統が案内を簡単にする

観光客の「(現在地から)〇〇へ行くのには？」という問合せに対し、ほとんどの場合、「こちら(あるいは、あちら)のバス停から〇〇番のバスに乗ってください」と案内することができなのが、現在の市バスの路線網です。

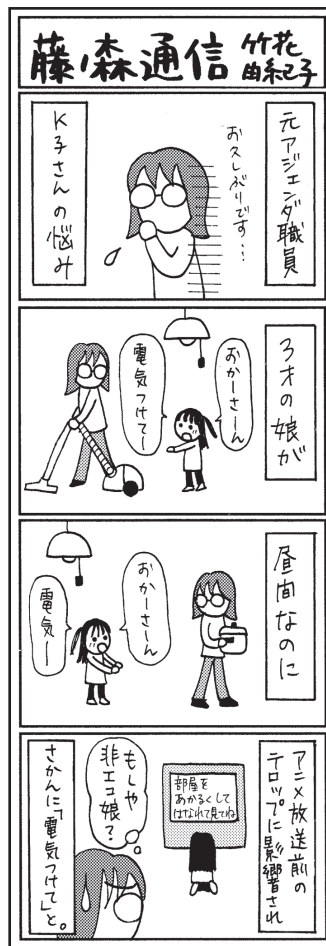
これがもし、途中で何度か乗換えしなければならぬ路線網になっていたらどうでしょう？ 目的地までの乗り方を案内されても、土地勘の無い観光客には簡単には覚えられないのではないのでしょうか。

人の行き来の多いA地点とB地点の間は、乗換えなしで行けるようにする、というのが今の市バスの系統の考え方になっています。

●路線図には一層の工夫が必要

とはいえ、路線図がわかりにくいのは問題です。京都市内のバス路線全てを1枚の路線図に収めると、どうしても複雑な印象を受けるものになるでしょう。

これを改善するには、たとえば主な観光コース別に、必要な情報だけを載せて不要な情報を載せない路線図を用意するとわかりやすくなると思います。



事務局短信 GW中に帰省し、妹の子どもに会いました。正月以来だったのですが、別人のように大きくなっていて驚きました。なんと、顔も変わっていました！ 赤ちゃんの成長は早いですね。(竹村光世)／今月号に同封の新聞記事のとおり、京都の「おひさま発電所」を応援するために京グリーン電力制度の証書を購入してくださる事業者・団体様の公募を始めました。まだ証書をお求めいただけますので、関心のある方は事務局(担当：小山)までお問合せください。(小山直美)／今月号はGW中の話題を取り上げて、GW明けにお届けさせていただきます。なお、工程の都合により2ページとさせていただきます。次号から通常の4ページ構成に戻ります。(長谷川吉典)